



下地や床材の種類によって使用する接着剤・副資材などが異なります。別紙「工法」の表を必ずご確認ください。  
 使用前保管時・施工時・養生時 ① 5℃以下(気温・下地)にならないこと ② 急激な温度変化がないこと ③ 水濡れのないこと

## 1. 下地の清掃

砂・塵埃などを除去してください。水勾配は1/100以上必要です。

## 2. 裁断とけがき

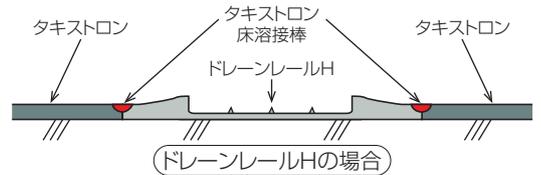
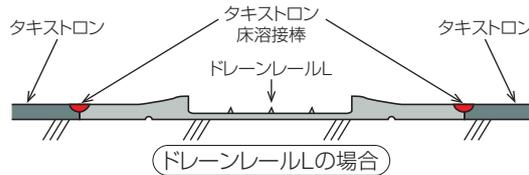
ドレーンレールを取り付ける位置に、ドレーンレールの幅寸法(ドレーンレールL:約70mm、ドレーンレールH:約50mm)で下地に鉛筆などで、けがいてください。次に、シートとドレーンレールを荒切りし、仮敷きしてください。

## 3. 接着剤の塗布と張り付け

下地に接着剤を塗布し、適切なオープンタイムを取った後、ドレーンレールとシートを張り付け、底部まで十分に圧着してください。

## 4. 継目処理

ドレーンレールとシートの継目はU字型に溝をカットし、タキストロン床溶接棒を用いて熱風溶接処理を行ってください。

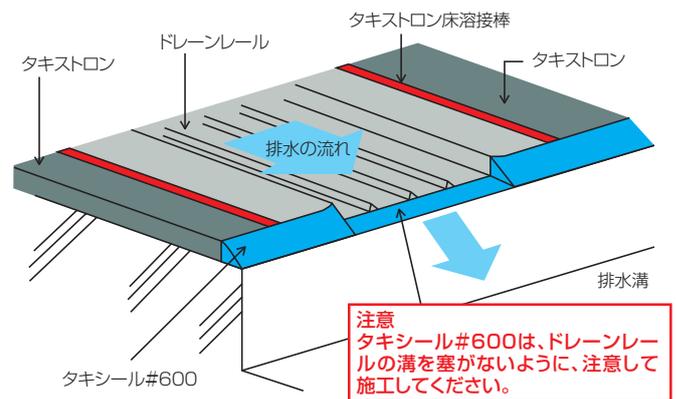


## 5. 端部処理

シートの端部をマスキングテープで養生し、タキシール#600で端部処理をした後、マスキングテープを取り除いてください。

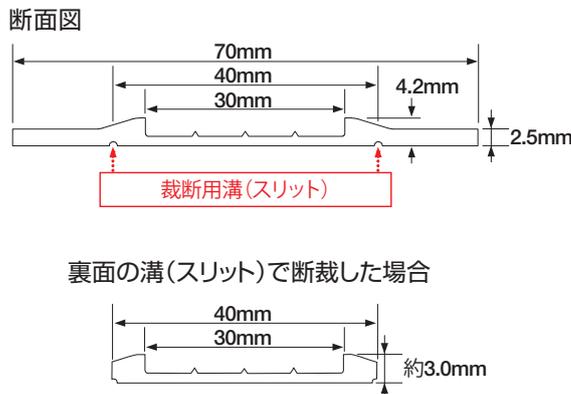
排水溝側にシールする際には、ドレーンレールの溝部分を塞がないように注意してください。

(シールにより水の流れを妨げる場合があります。)

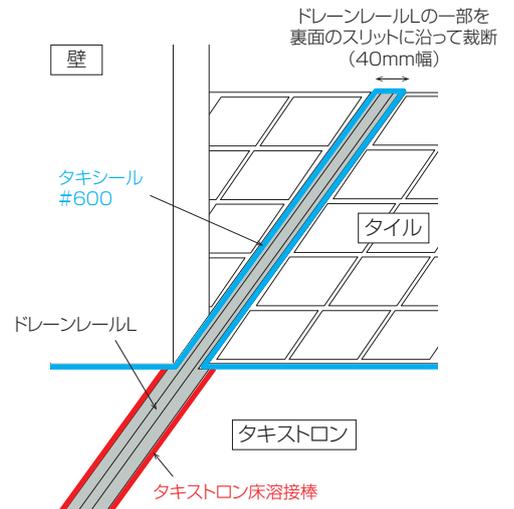


## ドレーンレールLについて

※ドレーンレールLは、裏面の溝(スリット)に沿って裁断いただくことで、**40mm幅でもご使用いただけます。**



※磁器タイルなどシート以外にドレーンレールLを施工する場合は下図のように継目処理・端部処理を行ってください。



タキストロン プラスケアXGと溶接する際は裏面の溝(スリット)に沿って裁断いただくことで厚みを合わせることができます。

プラスケア(WJ・CJ・MJ)には使用できません。(厚みが合わないため)

試験データ P.196
法規関連 P.218
工法・下地 P.229
施工手順 P.247
接着剤・副資材 P.314
副資材 品番一覧 P.328
メンテナンス 注意 P.333



下地や床材の種類によって使用する接着剤・副資材などが異なります。別紙「工法」の表を必ずご確認ください。  
 使用前保管時・施工時・養生時 ① 5℃以下(気温・下地)にならないこと ② 急激な温度変化がないこと ③ 水濡れのないこと

## 1. 下地の清掃

砂・塵埃などを除去してください。水勾配は1/100以上必要です。

## 2. 裁断とけがき

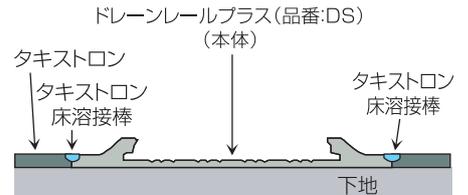
ドレールールプラス(品番:DS)を取り付ける位置に、ドレールールプラス(品番:DS)本体の幅寸法(約76mm)で下地に鉛筆などでけがいてください。次に、シートとドレールールプラス(品番:DS)本体を荒切りし、仮敷きしてください。

## 3. 接着剤の塗布と張り付け

下地に接着剤を塗布し、適切なオープンタイムを取った後、ドレールールプラス(品番:DS)本体とシートを張り付け、溝部分まで十分に圧着してください。

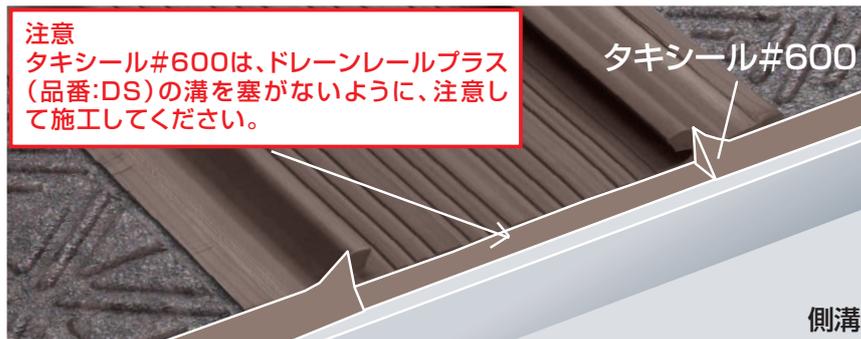
## 4. 継目処理

ドレールールプラス(品番:DS)本体とシートの継目はU字型に溝をカットし、タキストロン床溶接棒を用いて熱風溶接処理を行ってください。



## 5. 端部処理

シートの端部をマスキングテープで養生し、タキシール#600で端部処理をした後、マスキングテープを取り除いてください。排水溝側にシールする際には、ドレールールプラス(品番:DS)本体の溝部分を塞がないように注意してください。(シールにより水の流れを妨げる場合があります。)



## 6. カバーの切断

ドレールールプラス(品番:DS)のカバーを適切な長さに切断し、取り付けてください。(排水ホース側を空ける)

※排水ホース側には、DSホルダーの取り付け代を考慮する必要があります。

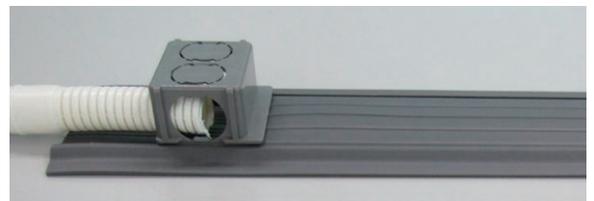
※タキシール#600がドレールールプラス(品番:DS)の溝を塞いでいる場合、タキシール#600へ掛からない長さにカバーを切断してください。カバーが掛かった状態では、カバーが浮き上がるなどの不具合の原因となります。

## 7. カバーの取り付け

片方を先にはめ込み、製品を丸めるように軽く曲げ、もう片方をはめ込んでください。手のひらで上から押さえ、浮きがないことを確認してください。



カバーは着脱を行いやすくするため、柔軟な配合設計となっており、温度の上昇や時間の経過により縮む場合があります。その場合は、DSホルダーとカバーとの間に隙間ができないようカバーをスライドしはめこんでください。





下地や床材の種類によって使用する接着剤・副資材などが異なります。別紙「工法」の表を必ずご確認ください。  
 使用前保管時・施工時・養生時 ① 5℃以下(気温・下地)にならないこと ② 急激な温度変化がないこと ③ 水濡れのないこと

## 1. 下地の清掃

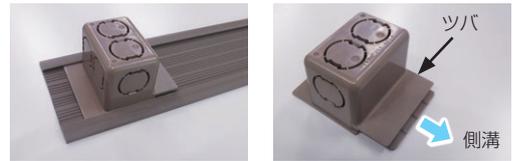
砂・塵埃などを除去してください。水勾配は1/100以上必要です。

## 2. 裁断とけがき

ドレーンレールプラス G を取り付ける位置に、ドレーンレールプラス G 本体の幅寸法(約78mm)で下地に鉛筆などでけがいてください。次に、シートとドレーンレールプラス G 本体を荒切りし、仮敷きしてください。

## 3. ホルダーをレールにセット

ドレーンレールプラス G を施工する際は、あらかじめ DGホルダーをドレーンレールプラス G にセットしてから施工してください。  
 ツバが2枚ある方を側溝側に向けて取り付けてください。

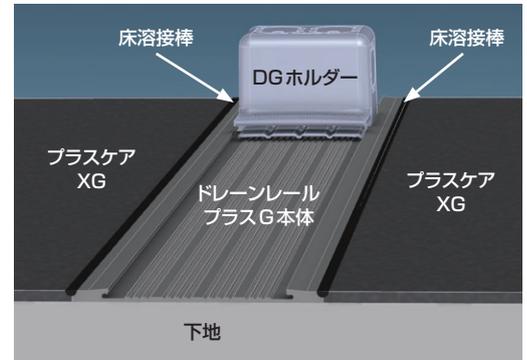


## 4. 接着剤の塗布と張り付け

下地に接着剤を塗布し適切なオープンタイムを取った後に張り付け、十分に圧着してください。

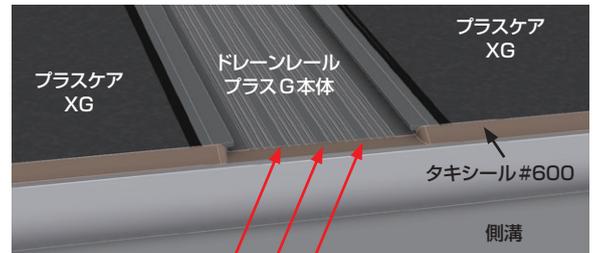
## 5. 継目処理

ドレーンレールプラス G 本体とシートの継目はU字型に溝をカットし、タキストロン床溶接棒を用いて熱風溶接処理を行ってください。



## 6. 端部処理

シートの端部をマスキングテープで養生し、タキシール#600で端部処理をした後、マスキングテープを取り除いてください。  
 排水溝側にシールする際には、ドレーンレールプラス G 本体の溝部分を塞がないように注意してください。  
 (シールにより水の流れを妨げる場合があります。)



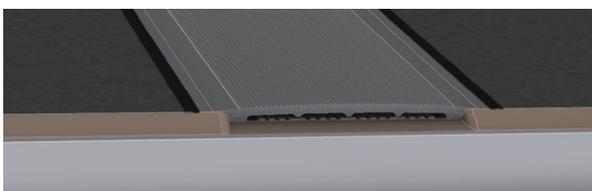
タキシール#600は、ドレーンレールプラス G の溝を塞がないようにしてください。

## 7. カバーの切断・取り付け

①ドレーンレールプラス G のカバーを適切な長さに切断してください。ドレーンレールプラス G のカバーは DGホルダーの2枚のツバの間に挟むようにして入れます。DGホルダーとドレーンレールプラス G のカバーとの間に隙間がないように長さを調節してください。



②カバーをドレーンレールプラス G 本体に取り付けてください。片方を先にはめ込み、製品を丸めるように軽く曲げ、もう片方をはめ込んでください。手のひらで上から押さえ、浮きがないことを確認してください。



カバーは着脱を行いやすくするため、柔軟な配合設計となっており、温度の上昇や時間の経過により縮む場合があります。その場合は、DGホルダーとカバーとの間に隙間ができないようカバーをスライドしはめこんでください。